

令和5年度第1回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 令和5年10月24日（火）午前10時から午前10時32分まで

【場 所】 宗像市役所 本館3階 304会議室

【出席者】 宗像市長 伊豆 美沙子
教育委員 石丸 哲史
教育委員 大庭 多美枝
教育委員 野上 順子
教育長 高宮 史郎

【欠席者】 教育委員 脇田 哲郎

【その他の出席者】 教育部長中村博二、子ども子育て部長早川ちさと、教育部主幹指導主事佐々木真理子、教育政策課長立花裕二、教育政策課指導主事末崎浩嗣、子ども支援課長恵谷英之、図書課長中野道子、秘書政策課秘書係長井口綾、教育政策課教育総務係長小森琢馬、教育政策課教育総務係主任主事小田菜奈美 ※傍聴なし

1 開会

【伊豆市長】 皆さんおはようございます。定刻になりましたので、ただいまより令和5年度第1回宗像市総合教育会議を開催いたします。

2 協議事項

(1) 宗像市教育大綱について

【伊豆市長】 今回の会議では、宗像市教育大綱についての1項目を協議議題としております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。それでは早速、「宗像市教育大綱について」の協議に入ります。事務局より説明をお願いします。

【教育政策課長】 教育政策課の立花です。よろしくお願ひいたします。

只今、市長からありましたように本日の議題は、「宗像市教育大綱について」です。宗像市教育大綱は、本市の教育行政を推進するための基本方針となるものです。現在の宗像市教育大綱は令和5年度をもって対象期間が満了となります。現在の教育大綱については、参考とする国の教育振興基本計画が、令和5年度より第4期教育振興基本計画に変わるため、変更点を取り入れることを可能とするために、令和4年度から令和5年度の2か年としておりました。令和5年6月に、

第4期教育振興基本計画が閣議決定され、内容の変更はあったものの、宗像市の教育における基本理念や基本方針について、大きく変更するものではないと認識しているところです。

そこで、宗像市政の基本計画である宗像市総合計画と宗像市教育大綱の整合を図るため、令和6年度については現教育大綱を1年間延長し、次期宗像市教育大綱の始期を宗像市総合計画に合わせて令和7年度からとしたいと考えています。

また、次期宗像市教育大綱につきましては、資料1の最終ページに図示しておりますけれども、基本方針につきましては宗像市総合計画の中に統合していくことを想定しています。

この件につきましては、7月に予定されておりました総合教育会議の中止に伴いまして、7月の定例教育委員会の中で「宗像市教育大綱の位置づけ」、「教育に関する動向」について事務局から説明させていただいたところ、延長に関して、賛成とのご意見をいただいております。従いまして、資料を添付しておりますが、資料2宗像市教育大綱のとおり、延長させていただきたいと考えております。

【伊豆市長】はい。ありがとうございました。事務局からの概要説明が終わりました。具体的な変更点について、改めて事務局より説明をお願いします。

【教育政策課長】それでは、こちらの教育大綱、資料2をご覧ください。朱書きしております箇所が変更点です。まず、表紙の部分でございますが、改定時期を修正し、1年延長させていただきます。次に、2枚ページをめくっていただいて、下のほうにページ番号がありますがその1ページ目の(1)の策定の趣旨と(2)の大綱の趣旨と対象期間について修正を加えることとしております。

続いて、6ページ目です。大綱の位置づけを図示したものがありますが、教育大綱の期間を修正いたします。それと、朱書きに変更することを失念しておりますが、「分野別計画」のうち、左上に記載しております「宗像市幼児教育振興プログラム」の期数を最新の計画である第4期に修正いたします。

最後に、7ページ目になりますが、先ほど説明させていただきました「宗像市幼児教育振興プログラム」ですが、令和4年度から新しい第4期が始まっておりますので、最新の情報に修正しております。

【伊豆市長】はい。ありがとうございました。事務局からの変更点についての説明が終わりました。ここままで、ご質問等ございましたら、何でも結構ですのでお願いします。

【石丸委員】今回、新たな教育振興基本計画が出たわけですが、その趣旨と、これまでの教育大綱の趣旨あるいは内容が大きく変わっていないということ、方向性が同じだということで、これは延長して差し支えないという解釈してよろしいですね。

【教育政策課長】おっしゃる通りでございますけれども、少しですね、国の教育振興基本計画の中に、新しく、ウェルビーイングという視点が入ってきておるところでございます。こちらについては、まだ宗像市の総合計画の方にもあがってきていない状況でございますので、これから、今年度から来年度にかけて、宗像市総合計画が策定をされますので、そういった趣旨を、まずは総合計画の中に盛り込むという形で、国の出された方針に沿った教育行政を進めていきたいと考えておるところでございます。少し時期はずれますけれども、やはり、そのところを汲み取りながら、進めていきたいと考えておるところでございます。

【石丸委員】ありがとうございます。今度延長します教育大綱の中の基本理念ですが、「一人一人が輝く教育のまち むなかた」とあるわけですが、この一人一人が輝くということが、ある意味、「ウェルビーイングの状態である」という風に考えることができるのではないかと思います。そういう意味では、宗像市の人づくりの理念というものは、すでにウェルビーイングの考え方が根底にあると考えられますし、この度、総合計画の中で、それを踏まえて位置付けられますと、「人づくり、まちづくり」というものが一体的になって、非常に大きな意義があるのではないかと考えたところです。

【教育政策課長】ありがとうございます。

【伊豆市長】次年度につきましては、まだ正式には発表しておりませんが、私の施政方針の中で一番大切なものは人づくりであり、人材の確保であるというのが根底をなすものであると思っています。様々な視点から、人づくりをどうやっていくのか、宗像市として最も誇れるというか、自負できるということは、やはり教育に対する予算措置等もそうですけれども、人をどうやって育てていこうかということが大事であろうという風に私自身も考えております。

他に何かございますか。

【野上委員】私は小学生の娘がいて、市のバスケットボール協会に所属しています。今、市のバスケットボール協会から各指導者宛てに、今後、中学生の部活動は土・日・祝日、平日で1日は練習休みであり、全ての練習試合や大会の参加ができないです。中体連だけは参加が可能ですが、今後の中学生の大会は中止になりますというような通知が来ました。小学生の親御さんや子どもたちは、中学生になったら思う存分は部活ができなくなるということで、不安と失望感を抱いています。「一人一人が輝く」という意味で言えば、すごく大切な時期に、大切な時間を奪われるのではないかっていう不安が広がっているのは、実際、耳にすることが増えてきて、今、地域振興型という風に、第1回目が行われたのですが、月に1回程度では、子どもたちの過ごす場もないですし、休みの日をただただ過ごし出したらどうしようという不安とかも聞かれますので、そのあたりが矛盾しているのではないかなと少し思いましたので、お伝えします。

【伊豆市長】事務局からありますか。

【教育政策課長】現状の部分をお知らせしたいと思います。部活動の地域移行につきましては、段階的に進めるという形で進んでおるところでございます。まずは、土日祝日の部活動について地域移行していこうということで、まず、今年度、10月からでございますけれども、月4回ある土日祝日のうち1日を地域のほうにお願いしようということで、今、月1回をその部分にあてて、地域クラブの皆さんに、専門性を持った方から指導を受けるという形で行っております。こちらについては、月1回の休みですので、他の土日祝日については今までどおりという形で行っております。一気に移行するというのはなかなか難しいところもございますので、これは段階的に、3年、4年をかけまして、徐々に、土日の分を減らしていく、それと同時に受け皿作りも行っていく予定です。現状、部活動の指導につきましては、教員の先生にお願いをしているところがございますけれども、なかなか専門性を持った競技の部分を担当していただくということが非常に少ない状況です。その部分については、やはり専門性を持った指導者から受けたほうが、より競技の楽しみであるとか、繋がりなど、そういったものもできるのではないかと。私どもも試行錯誤をしながら、やっているところです。皆様のご意見もいただきながら、こういった形がいいのではないかと考えて、進めさせていただきたいと考えております。以上です。

【伊豆市長】今先生方の働き方改革等々を考えた時に、部活のバスケットも、楽しく部活ができればいいという子と、その上を目指してスポーツをやっていくという子と、子どもたちはある意味、二極化する可能性があるのではないかと考えております。その中で、より上を目指していく子どもたち、そして、楽しくみんなとゲームが楽しめるという子どもたち、そこをどんなふうに指導者を付けてやっていくのかということですが、全国で初めてのことでございますので、スポーツが盛んな宗像地域において、どういう方法が一番いいのかというのは、まだ十分に検討がなされる必要がありますので、実際の子どもの意見や保護者の皆さんたちのご意見等々を、いかに具現化できるかっていうことは、なかなか短期間では難しいことではあるかと思っておりますけれども、子どもたちが未来に楽しみを持って、希望を持って、スポーツができるような環境づくりについては、行政としても考えていきたいと思っております。

【野上委員】ありがとうございます。

【伊豆市長】ほかにございますか。

【大庭委員】教育大綱のもとになる宗像市の総合計画と国の計画の年度がずれているので、作成するのは大変だろうなと思いながら聞かせていただきました。行政の組織自体、熟知しておりませんので教えていただきたいですけど、宗像市の教育大綱を令和6年度まで伸ばすっていうのは、その分野別の計画は、上位計画が6年度までなのに、令和6年を過ぎているものや、逆に言えば、第6期宗像市障がい福祉計画・

第2期宗像市障がい児福祉計画は令和5年までしかない。上の大きな決まりが令和6年までなのに、下部というか、それを担う各分野の計画にずれがあるのが、どう理解すればいいのか教えていただきたい。

【教育政策課長】おっしゃるとおりでございます、理想は総合計画に合うほうがいいのですが、なかなか難しい部分もございます。総合計画というのが宗像市にとって1番大きな計画になりまして、それに沿った形で分野ごと、それと国からの方針等が出て、各個別計画ができておるところでございますけれども、もし、大きく総合計画が変わるという形になれば、個別計画を改定することもございますし、もしくは、計画に記載をしていますが、事業を実施していくにあたって、予算の強弱によって、アクセルとブレーキを踏みながら進めていく中で、例えば福祉計画の中で、何が求められているのかを考えながら進めているというのが現状で、大きくまとまっているのが宗像市総合計画になろうかと思えます。

【大庭委員】ありがとうございました。

【伊豆市長】行政がやっている、もしくは行政が提示するものっていうのは、教育委員のみなさんはいろいろご存じだと思いますが、やはり、一般の方に対してどういうメッセージを出しているか、非常に分かりにくいという点があるのではないかとこのことについては、今後、考えなければいけないのではないかと思います。宗像市の一般の人たちに、どういう方向を向いて宗像市は教育をやっていきますよっていうことをわかりやすくしていくという努力が、やはり今後の求められるのではないかと思います。

【中村部長】総合計画そのものは法改正もありまして、今、作成の義務自体がない状態ですが、現実的には、ほとんどの市町村が総合計画を作り、その計画年次についても具体的に何年という決まりはないのですが、10年間の基本的な構想を練り、前期5年、後期5年で基本計画を策定するというのが、一般的なやり方として定着しているという状況にあるかと思っております。宗像市の計画については令和7年度からスタートします次期総合計画に、個別計画をできるだけ合わせる形をとっておりますので、ほとんどの計画が大体その年次に合わせて、見直す作業に入っているような状況です。ご指摘がありましたような、福祉関係の部局はですね、介護を含めての計画は3年スパンで区切っていくという形で、これは財源の絡むところなんですけど、そういうやり方をやっているものが一部、計画的には期間がずれているという状況がございます。そういったことで、教育についても、市の総合計画の期間に合わせていただき、上位の教育振興基本計画ですね、国の計画については直近のものを参考にさせていただいて、それに沿う形で進められるようにということで、合わせていきたいと考えております。

【大庭委員】ありがとうございました。

【教育政策課長】貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日、協

議でいただきましたご意見につきましては、事務局案の方向性が変わるものではないと、思っておりますので、お配りしております宗像市教育大綱を延長するという形で、今後、手続きをさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【石丸委員】もう1つよろしいでしょうか。合わせるということで、やはり、先ほど市長がおっしゃったように、市の総合計画があり、教育大綱があり、学校教育基本計画があるという、この関係性がどうなっているのかというのが市民にご理解いただけないと、やはり教育に対する理解は深まらないのではないかと思います。そういう意味では、まずはこの時期を揃えるというのは非常に大きな意義があるかと思えます。ホール・シティ・アプローチというのですが、どこを切っても宗像市の教育方針が見えてくるというような、教育の大綱を見ても、「宗像市はこの方向だよね」、総合計画を見ても「この方向だよね」という、どこを切っても同じという一貫性は必要であります。また、学校教育あるいは社会教育、広く人づくりという点で見ますと、例えば市は創業支援をされているわけですが、これはまさにアントレプレナーシップ教育の一環であり、起業家さんが宗像市でビジネスを起こす際には、地域資源というものをいかに見つけきるか、探し出せるかという能力は必要なわけですよね。いずれにしても、その「人づくり」という点で、総合計画を見ても、学校教育基本計画を見ても、そして教育大綱を見ても、一貫しているっていうところが重要でありますので、繰り返しになりますが、時期を揃えるっていうのが、その一貫性のまず第一歩ではないかと思っているところでございます。

【教育政策課長】ありがとうございます。また、総合計画を策定する段階におきましては、案を示させていただきながら、ご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【伊豆市長】では、本日は皆様の貴重な意見をいただきまして、本当にありがとうございます。ただいま教育政策課長が申しましたとおり、延長に関わる事務自体は進めさせていただきたいと思っております。

(3) その他

【伊豆市長】その他に、教育委員の皆様からこの機会にご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

行政の言葉っていうのは、先ほども申しましたけれども、市民に対するメッセージとしては固いですし、内容自体もわかりにくいのかなということは、感じるころがありますので、大綱は大綱として検討しなければいけないという状況ですが、この大綱を受けて宗像市の教育はどこを目指しているのかというメッセージを発していかなければいけないのかなと、常々思っておりますので、ぜひ教育委員会の皆様もご意見を言っていただきたいと思います。

では、特にご意見がないようですので、協議は終了いたします。それでは、事務局、お願いいたします。

3 閉会

【教育政策課長】 次回の総合教育会議は令和6年1月を予定しておりましたが、本日の協議の結果を受けまして、中止とさせていただきたいと思っております。来年度からは、総合計画の策定が始まりますので、定例教育委員会や総合教育会議の場を活用しながら、委員の皆様のご意見も集約させていただきたいと思っております。

では、最後に閉会の言葉を伊豆市長お願いいたします。

【伊豆市長】 以上をもちまして、令和5年度第1回宗像市総合教育会議を閉会いたします。皆様、お忙しい中、ご出席、そしてご協議いただきまして、ありがとうございました。